ボッパルトの若者たち

引率
青梅市立泉中学校　教諭
小林　明美

ボッパルト市は、ライン川に添うように造られた歴史のある美しい街です。街の中心部マルクト広場を歩くと、路地のすぐ先に川の流れが見え、古代の昔から人々がライン川と共に生活してきたことがわかります。滞在中何度となく往復したメイン・ストリートの近くには、ローマ時代の遺跡や中世の建造物が数多く見られ、その中には“現役”としてボッパルト市民に利用されているのも少なくありませんでした。

私たちの行程には、何人もの若者が付き添ってくれました。初めは慣れない様子でしたが、何度か顔を合わせるうちに声をかけるようになり、「学校は夏休みですか。」という質問をきっかけに、ドイツの教育制度について興味深い話が聞けました。

ドイツの一般的な教育の形は、私たち日本人から見るととても複雑です。まず日本でいう小学校４年生まではみな基礎学校で学び、その後、大学進学を目指すギムナジウム（９年間）、事務や専門職につくための実科学校（６年間）、そして職人や販売員を養成する基幹学校（５年間）の３つのコースに分かれます。１０歳で自分の適性を判断し、将来のキャリアを考え、コース選択をしなければなりません。さらに、実科学校や基幹学校終えたあとは、デュアル・システムと呼ばれる職業教育を受けることになります。週５日制のうち、３～４日が職場、１～２日が学校で実践と理論とを同時に学習する仕組みです。これを約３年間続けて卒業ということになります。

今回話を聞いたＳさん（女性１８歳）は、実科学校を修了し保育士になるために上級学校へ進学する予定です。基礎学校のときはあまり勉強が得意ではなかったけれど、実科学校で学びながら自分の夢を見つけ、もう少しで実現できそうだと嬉しそうに話していました。Ｒさん（男性２１歳）は市役所の職員で、連日私たちの世話をしてくださった方です。彼は、実科学校の職場見学で市役所の仕事に興味を持ち、１６歳からデュアル・システムで働き始め、１９歳で正規の職員に採用されました。まだ２１歳ながら、市役所職員としてはキャリア十分です。ときどき顔を出していたＬさんが、「今日は警察署に仕事に行くので不参加です。」ということもありました。

２日目に訪問したカントギムナジウムでは、フランス語の授業を見学しました。先生が途中から私たちを仲間に入れて下さり、同じ言葉をフランス語と日本語で、全員で学習しました。ギムナジウムの生徒たちが難しい日本語の音にも臆することなく、目を輝かせて発音していた姿は印象的でした。

日本とドイツの異なる教育制度には、それぞれに一長一短があります。ドイツでは一度コースを決めるとやり直しが難しく、“１０歳の選択”は厳しいのではという声も聞きます。一方日本では、自分自身と向き合ってその適性を見極め、職業を考えることがどんどん先延ばしにされています。中学校教員として、生徒にどのような働きかけが必要なのか、深く考える機会となりました。

このようにボッパルトの若者とのふれあいの中で、日本では得がたい経験をすることができました。今回の派遣にはたくさんの方々のご尽力があったこと、改めて感謝申し上げます。

『姉妹都市ボッパルト』

引率
青梅市企画部秘書広報課
広聴・国際交流担当主査
並木　友道

第１５回青梅市青少年友好親善使節団（７月２２日から３１日まで８泊１０日）の引率者として、青梅市在住の中高生１３人と一緒にボッパルト市を訪問してまいりました。

ボッパルト市を訪問するにあたり、団員達に７回の事前研修を実施しました。研修では、ドイツ語の日常会話、カントギムナジウム（日本の中高一貫校のようなもの）で発表する「日本・青梅」をテーマとした資料づくり、また、歌、よさこいソーラン節の練習等々。皆で一生懸命考え、準備を進めました。

はじめは「真面目でおとなしい」という第一印象だった団員達も、研修を重ねて行くうちに少しずつ変化が見られ、自ら積極的に行動する姿はとても頼もしく思いました。

出発の日がやってきました。羽田空港から約１２時間のフライトを経て、ドイツのフランクフルト空港に到着しました。空港からバスで約２時間、ようやくボッパルト市に到着です。

ボッパルト市では、全員がホームステイでの滞在です。ほとんどがドイツ語か英語での会話を求められる中、最初は話しかけることを躊躇していた団員達も、言葉が通じる経験をするごとに会話が増えていきました。また、ジェスチャーを交えることで更にコミュニケーションが深まっていく喜びを感じ、語学力の必要性もさることながら、相手に伝えたいという気持ちが一番重要であることを学んでいるように感じました。

２日目に訪問したカントギムナジウムでは、学習発表、歌、よさこいソーラン節の披露、その後、二つのグループに分かれてフランス語と美術の授業を体験しました。団員達は同世代との交流という貴重な機会を持つことが出来ました。

午後にはボッパルト市長への表敬訪問の中で、全員が研修で学んだドイツ語による自己紹介を行いました。

ライン川沿いにはボッパルト市をはじめとして、数多くの史跡や名所が残っています。滞在期間中、マルクスブルク城、ローレライ、コブレンツのドイチェス・エック、ケルンの大聖堂、ハイデルベルク城等を見学し、中世の素晴らしい史跡を目に焼き付けるとともにヨーロッパの歴史を学んできました。

史跡の他にも、ドイツはゴミ処理およびリサイクルにおいて世界有数の先進国です。今回のプログラムでは、キルシュベルクという街にあるゴミ処理施設の見学を組み込んでいただきました。

この施設は、ドイツ国内からも多くの視察を受け入れており、ゴミの分別からリサイクルまで、わかりやすく学べるように工夫されていました。リサイクルの重要性とともに、啓発活動についてもとても勉強になりました。

今回の訪問を通じて、ボッパルト市長をはじめとする市役所の皆様、ホームステイの御家族、ボッパルト・青梅友好協会の皆様等、本当に多くの方々に支えられてこのような友好使節団の派遣事業が成り立っていることを、あらためて認識しました。

ボッパルト市の皆様は本当に温かく、とても親切でした。今回派遣団員は、心に沢山の宝物をいただき成長して帰ってまいりました。

私は、縁あってこのような素晴らしい経験を団員と共にさせていただきましたことを、心から感謝しております。

今後も、青梅市とボッパルト市の友好の輪を広め、また、市民の皆様の国際交流への関心をより深めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、今回の友好親善使節団の派遣にあたり、多くの皆様にご協力いただきましたことを心から御礼申し上げます。

ありがとうございました。

(2) テーマ学習
「青梅とボッパルトのごみ分別の違い」

今回の派遣団員は、事前研修で青梅市のごみ分別について清掃リサイクル課に研修をしていただき、派遣中にはキルシュベルクにあるごみ処理場の見学や、民泊家庭でごみ分別について質問し、日本とドイツのごみ分別について学んできました。

「ドイツのリサイクル意識について」

青梅市立第一中学校　２年
清水　結

ドイツでの暮らしの中で、私はドイツでは「物」がとても大切にされていることに気がつきました。例えば、古い物を大切に使う工夫です。私の民泊家庭では、古い鋳物やアイロンがインテリアに溶け込んでいました。近所の民泊家庭でも、年代物のタンスが食器棚として使われていました。内装だけでなく、建物も昔のままのところが多く、景観を損なうような物もほとんどありませんでした。良質の物を長く使っていく工夫は、昔の日本にあったものと似ていて、素晴らしいと思います。

そして、どうしても出てしまうごみも、きめ細かく処理されていました。ごみ処理場のある森の中には、靴、ビン、ペットボトル、紙など様々なものを埋めて、どのくらいの時間で土に戻るかを実験しているところがありました。紙はボロボロになっていましたが、靴、ビン、ペットボトルなどは全く壊れたりしていませんでした。

そこで、ペットボトルのリサイクルです。日本では、飲み終わったペットボトルを資源回収に出しても、出す側にとっては出した後は得することはありません。しかし、ドイツでは、飲み終わったペットボトルは、スーパーなどに持っていくとお金と交換してもらえます。日本にはどこにでも構わずペットボトルや缶を捨てる人がいますが、ドイツのようにこのシステムを導入すれば、リサイクルへの意識が高まると思います。

日本では、要らないものをすぐごみにしてしまいますが、ドイツのように、出来る限り長く使って、最後は再利用するというリサイクルをつくっていくべきだと私は考えました。

ドイツと日本のごみに対する考えの違い

青梅市立第二中学校　３年
古川　真菜

私がドイツに着いて、まず感じた事は街並みがきれいだということです。建物や街の雰囲気はもちろん、ドイツの人々がその景観を崩さないように、きれいに保っていると感じるほど、ごみが見当たらず清潔でした。なぜならドイツには道にいくつものごみ箱が並んでおり、町の人々は当たり前の様にごみ箱にごみを捨てているからです。

日本でも青梅市ではポイ捨てをあまり見かける事はありませんが、都心部ではたくさんのゴミが落ちているのを見かけます。ドイツ人は綺麗な景観を保とうという意識がごみへの意識を変えているかもしれないと感じました。

ドイツでは経済活動の中で出る廃棄物を減らそうという目的から、１９９９年に包装材リサイクル規制例という法律が施行されました。これは家庭から出る廃棄物のうち半分を包装材が占める事に注目し、再利用に力を入れるために作られた法律です。実際、ドイツではお菓子の包装は日本とは違い、個別の包装は少なく、簡易な包装が多く見られ、ごみを減らす工夫がされていました。

また、ドイツのスーパーで買い物をした時には、日本の様なレジ袋は無く、置いてあるとしても有料で販売されていました。日本でも少しずつ袋を有料化しているお店は増えていますが、ドイツの方がマイバックを持参することが当たり前のようになっていると感じました。

ごみを捨てる時にも違いがありました。青梅市ではビニール袋にごみを入れて出しますが、ドイツではバケツにごみを入れてごみを出します。袋を使わないのも良い工夫だと思いました。

そして、飲み終わったペットボトルや瓶は、スーパー等のお店に持っていくと換金してくれます。日本ではリサイクルされていますが、人によってごみへの意識が違うため、換金するシステムを導入することで、ごみへの意識が低い人たちでもリサイクルするようになるので良いシステムだと思いました。

また、日本では燃やしたごみを埋め立てています。ドイツではごみを積み立てて山を作っているそうです。ドイツの人のお話しによると、あと何十年したらごみ山がいっぱいになってしまう可能性があるとのことでした。私は日本のように埋立地を作り、ごみを再利用できるものは再利用することの方が良い事ではないかと感じました。安全な埋め立て地を作ること、リサイクルできるものはリサイクルすること、土に返せるものは土にかえすことが私たちの生活環境には必要だと思いました。

私はこれからの生活の中で、この経験を通して、使えるものは大切に使い、きちんと物を分別できるようになりたいです。そして、積極的に地域のごみ拾いやリサイクル活動にも参加していこうと思います。

青梅、ボッパルトごみ分別の違い

青梅市立第三中学校　３年
藤原　愛瑠

青梅では、ごみは大きく分けると６種類に分別されます。ボッパルトでも分別の仕方はさほど変わらず、様々な種類に分けられますが、ボッパルトではごみの回収の仕方に違いがあります。

まず、ボッパルトの町を歩くと、大きなコンテナが目に入ります。このコンテナはごみを入れるためのコンテナで、三種類に分けられます。一つは資源ごみ用のコンテナです。このコンテナはグリーンマークが付いた包装ごみと金属、プラスチック、木材、紙、段ボール等を回収します。二つ目は、家庭ごみ用コンテナです。こちらは、複数の素材を混ぜて作られているごみ、分別不可能なごみ、他の回収・リサイクルの手段がないごみなどを回収します。三つ目は生ごみ用のコンテナです。ここには、台所から出る生ごみや、庭から出る植物等のごみが回収されます。ただし、庭から出る植物等のごみは、コンポストが無い場合、あるいはコンポストで処理できない場合のみ捨てる事が出来ます。また、生ごみ用のコンテナが無い場合は家庭ごみ用のコンテナに捨てる事が出来ます。コンテナの大きさは使う場所によって異なり、大きいものから小さいものまであります。

青梅では、決められた袋に各家庭でごみを分別して捨てます。私はボッパルトのごみ回収の仕方はとても良いアイディアだなと思いました。

そして、私がごみ回収の仕方で一番違うと思ったのは、ビンとペットボトルの回収方法です。青梅では、ビンやペットボトルは決められた日に回収するか、スーパー等の決められた場所に捨てる等の方法があります。しかし、ボッパルトでは、ビンやペットボトルはスーパーにある専用のリサイクルボックスで回収します。リサイクルボックスにペットボトルを入れると、画面に数字が表示され、しばらくするとお金が出てきます。つまり、リサイクルボックスで、ビンやペットボトルを回収すると、飲み物を買ったときに含まれていた容器代が戻ってくるということです。私はこのシステムを見た時すごく驚き、そして素晴らしいアイディアだなと思いました。青梅にもこのシステムを導入すれば、道に落ちているペットボトルなどは今よりも少なくなるのではないでしょうか。今すぐにとりかかることは出来なくても、自分たちでできる事を長く続けていけば、青梅はもっとよくなると思います。これを機に、地域のごみ拾いやボランティアにも参加していきたいなと思いました。

ドイツのごみ教育

青梅市立西中学校　２年
駒澤　由芽

私は、青梅とボッパルトのごみ分別にはさほど違いが無いように思いました。けれど、青梅ではポイ捨てがまだまだ目立つのに、ボッパルトではほとんどポイ捨ては見られないのです。私は、「この違いは何なのだろう」と思い、考えてみる事にしました。

まず、ドイツの人々は日本人よりもごみに対する意識が高いのだと思います。日本では一部の人たちがごみについて人々に訴えても、それに共感する人と、まったく興味を持たない人に分かれると私は感じます。けれど、ドイツ人は皆ごみ問題に興味を持っているのだと思います。たしかに分別がめちゃくちゃなところはありましたが、ポイ捨て＝環境を悪くするようなことはしない、出来ない雰囲気が街全体にあるのだと感じました。また、ポイ捨てをしない理由の一つには「誇り」もあると私は思いました。自分たちの住む場所に誇りを持っている、だからその場所を汚すようなことは絶対にしない、そういう主義なのだと思います。

ドイツ人はごみ問題に関心が高いですが、なぜでしょうか。それはおそらくこどものころからのごみに対する教育だと私は思います。キルシュベルクのごみ処理場に行ってそう感じました。このごみ処理場では小さな子どもを対象としたごみと向き合う授業を盛んに行っているそうです。私たちもその授業を受けたのですが、授業は森の中で、自然の循環を表すシンボルとして巨大バッタと巨大ムカデ、そして羊を見せて頂きとても驚きました。これだけすごい授業を行っているのだから、ドイツ人がごみ問題に関心がないわけはないな、と思いました。

この時の経験を生かしてまずは自分のごみ問題を見つめ直し、いずれは周りのいろいろな人に伝えて世の中に広めていきたいです。

環境問題への願い

青梅市立第六中学校　３年
吉崎　竜司

僕がボッパルトに行って驚いたことが２つあります。まず街を歩いていてポイ捨てが見当たらないことです。僕は地元で年に一度行われる川の清掃を手伝っていますが、傘や皿、ゲームなどたくさん捨ててあります。もちろん歩道にもたくさんごみがあります。しかし、ボッパルトでは、ごみが見当たらず、更に雨水でさえ再利用しているところもありました。

２つ目はスーパーの袋についてです。ボッパルトのスーパーでは、ビニール袋を無料ではもらえません。ボッパルトの方々はみんな自分で袋を持って買い物に来ていました。本当にみんなが環境問題について考えているのだなとびっくりしました。

ホームステイ先の家には、たくさんのペットボトルがありました。最初は何だろうと思っていました。すると、このペットボトルは、店でお金と替えてもらえるということを教えてもらいました。店で回収されたペットボトルは、また再利用して使うそうです。少しでもごみを減らそうとしていてすごいと思います。

ごみ処理場を見学してきました。そこで聞いた話では、１９８０年ごろは、ドイツもどんなごみでも土に埋めていたそうです。しかし、ほとんどのごみは土の中に長い間埋めても土にはならないので、それからドイツの人々はごみの量を減らすことに取り組みました。会社では、製品を包むのに使う包装紙をたくさん使うと罰金を取られる法律ができたため、包装紙を減らす取り組みを行い、全体で１０パーセントもごみが減ったそうです。

しかし、ドイツの人々もごみの分別を間違えて捨ててしまうそうで、そこは日本と同じだなと思いました。けれど、ドイツはできるものは何でもリサイクルしようとしています。日本でもリサイクルをして使おうと頑張っています。僕は、日本と違うところや同じところもたくさん知り、とても勉強になりました。また、このドイツのように何とかごみを減らそうとする考えが世界に広がれば、環境問題も良くなると思いました。青梅とボッパルトのごみ分別の違いについて知ることが出来て、僕もごみを減らしていきたいと思いました。

ドイツのごみ処理について

青梅市立第七中学校　２年
髙野　杏梨

私はボッパルトへ行き、町にごみが見当たらずキレイだなと思いました。そしてごみ処理場の機能も日本より発展していると感じました。

町にごみが見当たらないのは、町に設置してある「ごみ箱」の数が多いからではないかと思います。ライン川沿いには大きいごみ箱はあまりありませんでしたが、小さなごみ箱はたくさんありました。それに比べて日本は、ごみ箱の数が少ないのではないかと思います。一人一人がごみ箱に捨てるという意識も必要ですが、もう少しごみ箱の数を増やしてもよいのではないかと思います。

ドイツでは飲み終わったペットボトルをスーパーに持っていき、専用の機械に入れると、スーパーで商品を買うときに使える割引券が発行されます。日本でもこういったものはありますが、まだ数が少ないので、数を増やせばリサイクルの意識がもっと高まると思います。

ドイツでは埋め立てた時に出たガスを発電に使い自給自足をしていますが、日本にはあまり広まっていないので、ドイツの技術を学び、無駄をなくしていけたらと思いました。

お菓子等の包装も、包装が多いとメーカーが責任を負い罰金を支払わなければならない仕組みになっています。実際に日本でお菓子や文具を買ったときに、包装がたくさんあり、ごみが多くなってイライラすることがあるので、この点はドイツを見習い、日本も包装がもっと簡単になれば良いなと思います。

私はドイツに行く前は、もう少しリサイクルに興味を持とうと思いつつも、なんでもごみ箱へ捨ててしまっていましたが、プラスチックと雑紙と燃えるごみに分ける事を意識しました。それによりかなりの量の雑紙が出ている事がわかったので、これからも続けていきたいと思います。

私はドイツへ行くというきっかけがあったので、リサイクルを意識できましたが、きっかけが無いとなかなか意識できないと思います。意識することを当たり前にすれば、ごみは確実に減ると思うので、みんなが当たり前にできる社会を作りたいと思います。

きれいな街並みを保つために

青梅市立霞台中学校　３年
中野　宇佐美

環境大国ドイツ。ボッパルトの街がきれいなのは環境を守ろうと、市民一人一人が意識しているからだと思います。青梅の街もきれいですが、ガムが捨てられていたり、たばこの吸い殻が落ちていたり、ペットボトルがポイ捨てされています。学校で地域清掃を行うのですが毎回、たくさんのごみが拾い集められてきます。そういう面ではまだまだ環境に対する意識が日本は低いのだと思います。

ドイツではごみが道に捨てられないような工夫がしてあります。ポイ捨てされやすいペットボトルが落ちていないのは、きっとペットボトルのデポジット回収があるからだと思います。このデポジット回収とは、ペットボトルを買うときにデポジット料金が上乗せされていて、飲み終わった容器を店に持って行くとデポジット料金が返却される仕組みです。

こうすることによってポイ捨てする人が減っているのです。また、このデポジットの回収場所は近所のスーパー等近いところにあり、行くのが面倒な人を減らす効果もあります。日本もこういう仕組みをつくれば少しはポイ捨てをする人が減って、街がきれいになるのではないかと思います。

環境大国ドイツにも問題点はありました。一つは有名な観光地にはポイ捨てされているごみが多いことです。これは観光客が汚している証拠だと思います。ケルン大聖堂にも様々な落書きがしてあり、中には日本語での落書きもありました。せっかく綺麗な街なのですから、観光客の私達も汚してはいけないと思います。

二つ目はごみの分別です。これは、日本人もできていないことなのですが、ドイツでもそうでした。実は私も、以前までは、そんなに悪い事でないと思い、よく分別せず捨ててしまいました。ドイツでも、ごみ処理場見学の時、ちょうどごみが運ばれてきたのですが、紙のはずが「カランコロン」と音がなっていて、明らかに違うものが入っていました。分別はきちんとしないとリサイクルできないし、無駄なごみが増えるだけなのです。

日本もドイツも同じような問題があり、両国の見習うべき点もあります。環境大国ドイツに住む人・観光に来た人・働きに来る人、誰もが環境を守っていこうと意識してほしいです。そして、日本もごみはどこに捨ててもいいというのではなく、決められた場所に捨てる習慣を身につければ、もっともっと環境はよくなるのではないかと私は思いました。

これからは環境のことを意識して行動し、美しい青梅市を維持できるように、努力したいと思います。

ドイツのごみについて

青梅市立吹上中学校　３年
小嶋　ゆず

ドイツはごみに対する意識が高いと思いました。

まず街にごみが見当たりませんでした。観光場所にも街にはごみ箱がたくさん設置されていました。だから、きれいな国に保てているのだと思いました。

また、スーパーで買い物をすると、袋はついてきませんでした。もし袋が無い場合は、ビニールではなく、布の袋を買います。日本はエコバックを持つ人が増えてきていますが、まだまだスーパーのビニール袋を使う人はたくさんいます。日本もドイツのようなシステムになれば、環境に良い国に発展していくと思います。

また、ドイツでは飲み終わったペットボトルはお金に変える事が出来ます。捨てるよりはお金に変えた方がいいし、ペットボトルはリサイクルできます。住民やリサイクルする企業の事も考えた、とても良いシステムだと思いました。

ごみを捨てる時は、家の前には大きなごみ箱がありました。箱なのでずっと使えるし、バケツの下にタイヤが付いていて簡単に運べるようになっていました。便利で効率的だなと思いました。

ドイツは環境に優しい国でした。ごみに対する関心はとても高かったです。もちろん日本もごみに対して良いところがたくさんあります。しかし、ドイツに比べてごみに対する国民の関心が低いと思います。一人一人がごみに対する考え方が変われば、日本もドイツの様な環境に優しい国になれるはずです。なので、まずは私が変わろうと思います。今までの私はごみの分別があいまいな所がありました。でもそれをはっきりさせて、しっかり分別しようと思います。この他にも環境に対して良い事を考え、その考えた事を実行できるようにしたいです。

ボッパルトのごみに対しての意識

青梅市立新町中学校　３年
長塚　咲季

ヨーロッパの国々は環境保護の先進国としてエコに対する意識が高いことはよく知られています。その中でもドイツはごみの処理やリサイクルへの関心がとても高いと聞いていました。しかし私は、ドイツに行くまで日本とあまり変わらないのではないかと思っていました。

ホームステイ先で驚いたことがありました。それは、ペットボトルやビンに入れられて常備されているたくさんの水です。ドイツでは、水道水が飲めないと知ってはいたものの、あまりの多さに驚きました。日本よりもはるかに多くのペットボトルやビンが使われているのです。しかも、これらはきちんと回収され資源として再利用されていました。ビンは色ごとに分けられて回収されます。特に驚いたのはペットボトルで、お金に換金できます。

ホームステイ先でも「飲みきったペットボトルがあったら捨てずに渡してね。」と言われました。また、スーパーではエコバックを持参していました。袋はレジの横で売られていました。日本では買った品物と一緒に袋を渡されるのが普通です。リサイクルもすると同時に無駄なごみをださないこともしていました。このようなことが、当たり前になっていることにエコに対する意識の高さを感じました。

今回の派遣でごみ処理場に行きました。集められてきたごみは細かく分別され、なるべく資源とし、無駄にしないという工夫をしていました。また、商品の代金に処分費が含まれていて企業が最後まで責任をもつ仕組みになっているというところもごみを減らす工夫だと思いました。他にも埋め立て地では下の層から順に土に還っていく作りになっていました。その中でも特に印象に残っているのは、色々なものを土に埋め土に還るまでにどの位時間がかかるのかを実際に見たことです。新聞紙はすぐに土に還っていましたが、プラスチックはそうはいきませんでした。こんなものが町に捨てられたらごみは増える一方です。ごみ処理場で職員の方がごみの分別の仕方を７歳の子に質問しました。その子が正しく答えたことに驚いたと同時に、よく理解していない自分が恥ずかしくなりました。

また、ボッパルト市の道にごみはなく、ポイ捨ても見かけませんでした。それがドイツの当たり前で日本人の私は驚くばかりでした。ボッパルト市がきれいな理由は町並みだけでなくごみが落ちていないこと、ポイ捨てをしないことも挙げられるのではないかと思いました。この町に住む方々の意識が、美しい街や自然を守っているのだと思いました。

ボッパルト市には見習うべきよいところがたくさんありました。ごみは私たちの意識次第で多くも少なくもなります。ボッパルト市のような美しい町になるように努力していきたいと思います。

ごみ削減のための工夫

青梅市立泉中学校　２年
井上　小百合

私はボッパルトで、日本とは異なるごみ削減の意識の高さを感じました。ドイツには環境に配慮した多くの工夫がありました。

まず、ごみの分別についてです。ボッパルトでは、ごみを紙、生ごみ、プラスチック、その他に分けて、それぞれを各家庭にあるバケツに捨てます、そしてごみ収集車は、バケツの中身だけを回収します。青梅で使用している袋とは違い、バケツは繰り返し使えるので環境に良いと思いました。

次に、リサイクルについてです。スーパーに買い物に行くと、ペットボトルを入れる機械がありました。ホストファミリーの方に聞くと、ペットボトルは換金できるというマークがついているものがあり、それを換金する機械でした。多くの人が利用していて、ケースでたくさん持ってくる人もいました。私は、この仕組みはすごく良いなと思いました。わずかですがお金に変えられるので、多くの人がリサイクルすると思うからです。

またごみを出さない工夫もありました。スーパーでは、野菜や果物は１つずつそのまま置いてあり、量り売りでした。そして肉類もその場で切って売るというものでした。こうすることで、トレーなどが要らないため、ごみを減らすことが出来ます。

また、レジ袋が無く、エコバックが売られていました。ドイツでは、買い物の際にマイバックを持参することが当たり前になっています。日本でもレジ袋の有料化が増え、マイバックを持参する人はいますが、全員そうというわけではありません。ぜひ日本でも、マイバックを持参する人が増え、レジ袋を使うことが少なくなれば良いと思います。

今回の派遣では、ドイツのごみ削減の工夫を学び、日本は見習うべき点が多くあると感じました。ドイツは、一人一人がごみ問題に対して高い意識をもっているため、ごみ削減が出来るのだと思いました。日本でも、ごみに対する意識を高め、ドイツの様な環境に優しい国になって欲しいと思います。

今回はごみ問題について深く考える良いきっかけとなりました。ここで学んだことを、これからの生活に生かしていこうと思います。

環境への意識

明治学院東村山高等学校２年
楠見　奈都子

私はボッパルトに行き、ドイツ人の自然を愛する心に学ぶべきことがたくさんあると感じました。日本もまた自然を大切にする国だと思います。マイバックやマイボトルも普及してきました。しかし、自然と共存するという意識はドイツと比べると低いと言わざるを得ません。今回「環境先進国」と呼ばれるドイツとの違いは様々な場面で感じました。

まず家庭での徹底した分別です。ホームステイ先のごみ箱は、紙ごみ、生ごみ、プラスチックごみ、その他のごみ、の四つに分けて色分けされていました。日本よりも細かい分別ですが、ドイツではごみの分別を幼いときから教えるため､子どもでも分別方法を理解しています。その他にも、町の中では電池回収ボックスや、古着・靴の回収ボックスが見られました。

次に、スーパーでの取り組みです。各家庭で出たペットボトルは、スーパーに持っていくと換金してもらうことができます。換金という制度を始めてからは、ドイツではペットボトルの回収率が大きく上がったそうです。また、商品には余計な包装がされていません。野菜や果物はそのまま棚に置かれ、肉は量り売りで売られていました。ごみを出さない工夫は家庭だけでなく、国全体で行われています。

最後に環境を守ろうとする意識の高さです。ホームステイ先では水や電気をできる限り節約していました。洗剤も環境に優しいものを選びます。それは特に食器の洗い方によく表れていました。まず、洗う前に汚れを水で落とし、すすぐときは、水ではなく二種類のタオルを使って泡を落とすのです。一人一人の環境に対する意識の高さに、日本との差を感じました。

ドイツの人は、自然を大切にします。このことは、自然と共に生活しているという意識が根源にあるからだと考えました｡お父さんのヨハネスさんは森で働いていて、森での出来事をよく話してくれました。実際に森に連れて行ってもらったときには、おいしい木の実を取り、食べさせてくれました。私が森で見て感じたのは、人間が森と共存しているということでした。無駄な森林破壊はなく、子どもたちが森の中で楽しそうに遊ぶ姿は印象的でした。ドイツで見たこの姿が世界の様々なところで見られるように、環境への意識の変化が求められていると感じました。

ボッパルトのごみ分別について

大成高等学校３年
但野　広樹

私は以前からドイツはごみの分別に厳しく、国がリサイクルに強く力を入れていると聞いていました。そして実際に行ってみると、日本と違う形でした。

まず私が驚いたのは、ペットボトルなどの分別です。日本では飲んだ後に捨てるだけですが、ドイツでは飲み終わったペットボトルやビンをスーパー等に持っていくと、２５セント返ってきます。これのおかげか、たくさんの人がペットボトルやビンをスーパーに持っていく所を見かけました。私は日本もこの制度を取り入れるべきだと思います。なぜなら、公園や道端などでよくペットボトルが捨てられているのを良く見かけるからです。道に物が捨ててあるだけで、良い気持ちにはならないし、見た目も汚い印象になってしまいます。そこで、スーパーなどでお金が返金されるシステムで回収すればポイ捨ては減ると思います。

さらに、ビンにはもっと細かい分別があります。それは、ビンの色での分別です。日本ではどのビンも一つにまとめてごみの日に出して、それをいろいろなものにリサイクルしていますが、ドイツでは色で分けてそのままリユースしています。そのため、飲み物のビンに、前に貼ってあったラベルが残っていたりします。ビンは３回リユースした後に捨てるそうです。これだけ１つの物に対して細かく分けているドイツの熱意に強く感心しました。こんなにルールをしっかり守ってくれるまでの苦労は、並大抵のことではないだろうと思いました。

次に驚いたことは、ごみの細かい分別についてです。例えば木材と、ワインのコルクは分別が必要であり、電気製品とコンピューター関連製品も分別する必要があります。日本だったら、全部一緒に捨ててしまうか、燃えるごみに出してしまうと思いますが、ドイツでは細かく分けて使えるだけ使っています。

今回の派遣でドイツと日本の違いを詳しく知ることができて、本当に良かったと思います。なぜならドイツ特有のものを学び、自国の制度を良く知るきっかけになったからです。

意識と環境問題の関係性

明治大学付属明治高等学校１年
久保　舞奈

環境先進国と呼ばれているドイツにあるボッパルト。そして近年エコに力を入れている日本の青梅。そこにはどのような違いがあるのでしょうか。

それを探るために、私はまずホームステイ先の同級生の女の子と話し合いました。その中でまず出たのが、「スーパーマーケットのレジ袋が有料ということ」です。

ドイツでは商品を買う人はレジに並んでいるときに袋を買うか、エコバックをもっていくようになっています。しかし、日本でも近年レジ袋が有料制になったり、バックを持参していくとポイントがついたりするように変わってきています。

次に出たのは「飲み物を飲んだ時に出るペットボトルの処理について」です。ドイツではスーパーマーケットなどにペットボトルを回収する機械があって、そこに入れるとお金が返金されるシステムになっています。このことは日本と決定的に違います。ドイツではほぼ全員の人がこれを利用しているようです。これは、売った人がごみを最後まできちんと回収するという点で、とてもすばらしいものだと思いました。

青梅にもスーパーマーケットなどに回収する場所がありますが、多くの人がごみとして出してしまっているのが現状です。

彼女は「私たちはこれからずっと自分たちの町で生きていく。その町がごみだらけになってしまったら住めなくなってしまう。それはたくさんの人が困るということと同時に、私たちはごみについて学ぶ必要がある」と言っていました。

私たちが常に意識していないと、ごみはどんどん増えてしまいます。リサイクルして再利用するにも、お金がかかります。そこでまず、ごみを減らす、リデュースすることが重要だと思います。

そして、ごみについての質問を突然投げかけたりしても、きちんと自分の考えも付けて答える事が出来るような、意識の高いドイツのごみに関する教育を見習うべきだと彼女と話していて痛感しました。

彼女は自分たちの町がごみだらけになると、これから先に住む人も自分も困ると言っていました。

私たちはごみや環境問題を考える場合、国や地球規模で考える事が多いです。確かに国や地球規模で考えることも大切ですが、まず自分たちの町から考えていくのも大切だと気付きました。そしてその考えを青梅市民全員が持てば、もっと住みやすい町になると思います。

５　参考資料

（１）平成２６年度事業スケジュール

月　日	内　　容
４月１１日(金)	校長会にて市内各中学校へ派遣団員推薦依頼
４月１５日(火)	広報おうめ・ホームページ等で公募団員募集開始（５月１６日締切）
５月下旬	市立中学校団員推薦者内定
６月　１日(日)	公募団員面接試験実施
６月上旬	公募団員内定
６月１３日(金)	第１回事前研修（市長面談等）
６月１９日(木)	第２回事前研修（親子研修・派遣事業説明）
６月２２日(日)	第３回事前研修（ドイツ語会話・歌、よさこいソーラン練習等）
６月２６日(木)	第４回事前研修（ドイツ語会話・歌、よさこいソーラン練習等）
６月２９日(日)	第５回事前研修（テーマ学習等打ち合わせ）
７月１０日(木)	第６回事前研修（ごみの分別について、テーマ学習等打ち合わせ）
７月１３日(日)	第７回事前研修（親子研修・団員決定等）
７月２２日(火)	ボッパルト市へ派遣
～３１日（木）	
８月　７日(日)	第１回事後研修（親子研修・帰国報告等）
８月２４日(日)	第２回事後研修（報告文提出・派遣報告会準備等）
９月　７日(日)	第３回事後研修（派遣報告会準備）
９月１１日(木)	派遣報告会
	派遣報告書完成

（2）事前・事後研修の様子

事前・事後研修の様子を団員の感想
（一部抜粋）とともに紹介します

○事前研修

第１回事前研修（初めての顔合わせ）

選ばれたからには事前研修から報告会まできちんとやりぬきたいと思います。（清水）

第２回事前研修（親子研修）

とても景観が良くきれいなところだったので、行くのがとても楽しみになりました。（古川）
ライン川の景色もとってもきれいで、多摩川の景色と少し似ていた所に驚きました（中野）

第３回事前研修～第６回事前研修

英語に似ているところもあるけれど、ドイツ語特有の言い方もあって難しかったです。（藤原）
「ありがとう」「おはようございます」だけでもドイツ語で話したいと思います（久保）

テーマ学習のだいたいの内容が決まって安心しました。これからも気を抜かず頑張ろうと思います。（井上）

よさこいソーランもだいぶ出来てきて楽しく踊れたので良かったです。（吉崎）
よさこいソーランの練習をたくさんして、どんどんみんなで踊れるようになっていくのがとても楽しかったです。（楠見）

ローレライの歌はドイツ語が難しかったです。（小嶋）
歌の練習は最初はなかなか恥ずかしくて声が出せなかったけど、だんだん出せるようになりました。（駒澤）

この頃になると、団員同士の結束も強まり、
にぎやかに話し合う姿も見られるようになりました。

テーマ学習の事前研修として、青梅市環境部清掃リサイクル課の職員の方に、青梅市のごみ処理について教えていただきました。団員たちは派遣中、ドイツのごみ処理場に行き、青梅とボッパルトのごみ処理の違いについて学びました。

第７回事前研修（団員決定通知授与）

あと２週間でボッパルトに行くので、緊張します、しかし楽しみでもあります。（吉崎）
ホームステイ先が決まって緊張してきました。よさこいソーランや歌をもっと元気良くできるようにして行きたいです。（長塚）
すこしずつ皆の仲も良くなっているので、もっと協力していきたいと思っています。（但野）
ホームステイ先も決まって、「本当にドイツに行くんだ」と感じました。ドイツ語を話せるかドキドキしています。ドイツでの生活は大変かもしれないけど、楽しみたいです（中野）
出し物やテーマの発表が完成に近付いているのが目に見えてわかって、ドイツに行くのが楽しみになりました。（久保）

第７回事前研修では、平成２４年度の派遣団員が参加して、いろんなアドバイスをしてくれました。

○事後研修

第１回事後研修～第３回事後研修

帰国し第１回目の親子研修では、ボッパルトに行ってどんなことを学んできたのか、保護者や団員の前で一人ずつ発表しました。

第２、３回目の事後研修では、派遣報告会に向けての発表の準備をしました。

（３）派遣報告会の様子

冒頭に、青梅市長が挨拶をし、御来賓である青梅市議会の浜中議長、岡田教育長、青梅市中学校校長会会長の吹上中学校の榎戸校長先生から御挨拶をいただきました。その後、団員の司会により進行しました。

まずは、リーダーである髙野さんが挨拶をした後、団員たちの自己紹介をしました。
民泊家庭の紹介、青少年友好親善使節団への応募の動機、そして、ボッパルトでどのような経験をしてきたのかを、ボッパルトに行くことができた感謝とともに、会場の皆さんに伝えました。

そのあとは写真をスクリーンに映しながら、事前研修・事後研修の内容、派遣期間中の日程の説明や、民泊家庭とのエピソードなどを報告しました。
発表を行う団員たちの姿は、事前研修の時の姿よりも堂々とした自信あふれるものでした。
全ての報告を終えると会場から温かい拍手をいただき、団員たちはほっとした表情をうかべていました。

派遣報告会は無事終了し、最後に全員で記念撮影をしました。

派遣報告会を終えると、第１５回青梅市青少年友好親善使節団としての活動はひとまず終了します。
しかし、本当の意味での国際交流は、スタートラインに立ったばかりです。青梅市とボッパルト市との姉妹都市交流に参加したことを伝えること、そして、団員たち自身も姉妹都市交流を続けていってほしいと思います。

（４）派遣団員募集要項（公募用）

姉妹都市ボッパルト市への青少年友好親善使節団

派遣団員募集要項

今年の夏、姉妹都市ボッパルトへ！　あなたも参加してみませんか

（第１５回ボッパルト市への青少年友好親善使節団派遣事業　主催：青梅市）

【事業目的】	青梅市の姉妹都市ドイツ・ボッパルト市へ青少年を派遣することにより、両市の友好親善を深めるとともに、国際的視野に立つ青少年の育成を　図ることを目的としています。
【募集対象】	青梅市在住の市立中学校以外の中学生・高校生 ※市立中学生は各学校での選考となります。
【派遣先】	ドイツ連邦共和国ラインラントプファルツ州ボッパルト市
【派遣期間】	平成２６年７月２２日（火）から７月３１日（木）までの１０日間
【応募資格】	１　派遣時に、青梅市在住の中学２年生から高校３年生であること （今までにこの派遣事業でボッパルトへ派遣された方は除きます。） ２　心身ともに健康で、協調性に富み、規律ある団体行動ができること ３　派遣後も民泊受入れやイベントへの参加等で青梅市の国際交流事業や姉妹都市交流事業に協力できること ４　青梅市が実施する事前研修（７回程度）および事後研修（３回程度）に参加できること（事前研修を修了した方が正式に団員となります。） ５　帰国後に開催する派遣報告会に参加できること（９月中旬予定）
【募集人員】	若干名
【費用】	派遣にかかる航空運賃、空港施設使用料、空港税、燃油サーチャージ、海外旅行傷害保険料、市役所・空港間送迎バス代は青梅市が負担します。それ以外の個人で必要な経費は団員本人の負担となります。 （例：パスポート取得に関する費用等）
【宿泊】	ボッパルト市での宿泊は、全員ホームステイとなります。
【選考】	作文審査と面接
【申込方法】	下記に記載の申込受付期間内に所定の申込書に記入の上、写真を貼付し、作文と一緒に市役所本庁舎４階秘書広報課広聴・国際交流担当窓口に直接持参または郵送してください。（作文は自筆に限ります。） 送付先：〒１９８－８７０１　東京都青梅市東青梅１－１１－１ 青梅市役所企画部秘書広報課広聴・国際交流担当
【申込書・原稿用紙】	青梅市のホームページからダウンロードできます。また、市役所受付、秘書広報課広聴・国際交流担当窓口、各市民センター、中央図書館で配布します。
【申込受付】	平成２６年４月１５日（火）～平成２６年５月１６日（金） （郵便の場合は、５月１６日の消印有効） 午前８時３０分から午後５時１５分まで （ただし、土・日・祝日は休み）

【　作　文　】	所定の原稿用紙に１０００字から１２００字の作文を作成し、申込書と一緒に提出してください。
【作文のテーマ】	①「国際交流あるいは、国際理解について」 ②「ドイツ（ボッパルト）に行って学びたいこと」 ※どちらか１つ選んで書いてください。
【面接日と会場】	**平成２６年６月１日（日）**午前９時から（予定） 各応募者の面接時間は別途連絡します。 青梅市役所４階４０３会議室（控室：市役所４階４０２会議室）
【選考結果の通知】	６月１０日までに応募者全員に通知します。
【事前研修】	団員内定者の第１回目の研修は、６月１３日（金）午後７時から青梅市役所４階４０３会議室で行います。
【問合せ先】	**青梅市役所企画部秘書広報課広聴・国際交流担当** **電話番号　０４２８－２２－１１１１（内線）２４１６** **午前８時３０分から午後５時１５分まで** **（ただし、土・日・祝日は休み）**